

「現地を訪問して想うこと」

1987年（昭和62年）経営学部卒 山田 隆一

福島県コースに参加させて戴き、貴重な経験をさせていただきました。

震災復興の状況を見聞するに際して、地震、津波、原発事故と3つに分けて考えさせられました。私の仕事は、神戸と中国徐州にある製造業で働いています。原子力発電の再稼働、新規着工となると仕事のチャンスが増えることは間違いありません。原子力に賛成か、反対かは浪江町の状況をまずは見て判断していただきたいものです。行く前と後では考え方が変わりました。

まず、一番の衝撃は原発事故でふるさとに住めない、仕事ができない、家族が分断してしまった、避難を余儀なくされていた浪江町の視察でした。

原発事故で立入禁止となり人口二万人の街が一気に人がいなくなる。人がいなくなると、外部から泥棒が入り、いのししや豚も出入りする、今は一時帰宅できるようになり、一般の人も入ることができると聞きました。人がいない街、震災後そのままの家屋、閉店したコンビニや商店を見ると、原発事故の代償がいかにか大きいか、東京電力さんの賠償をもらえる人と、もらえない人、それによる住民の分断と亀裂など現地にいかないとわからないことが多かったです。ぜひ、この現状を発信して原発について考えたいものです。原発事故の真の原因は、津波なのか地震なのか老朽化した原発機械なのかは私にはわかりませんが、当時の政府の避難指示のありかたも考えさせられます。原発事故の重大性と人々に与える苦痛と怒りを感じました。本来であれば、子供たちがサッカー出来るJビレッジが原発事故対応の拠点となり、グラウンドがなくなり駐車場になっていたのも重く受け止めました。スポーツもできなくなっています。

次ぎに津波による被害をアクアマリン福島さんであらためて映像を見させていただきました。津波の力をまざまざと見ましたが、お客さんの避難誘導など適切な対応をされて、未だに震災前のお客さんの来客数には戻ってはいませんが、子供、家族づれのお客さんがたくさんいる光景を見て、復興されている実感がありました。修学旅行先として推奨します。

結びに、今回の貴重な体験は、小学生から高校生、大学生まで修学旅行や校外学習でぜひ福島を見ていただきたい。参加者の中には教職員の方も多く、そのように感得されたと思います。私は、会社が儲かったら社員旅行で福島を企画したいと考えます。全国の中小企業経営者は、社員旅行先として福島に行ってください。応援ツアーを企画していただいた校友会と福島県校友会の方々と受け入れてくれた浪江町、Jビレッジ、おいしいトマトを製造業の知恵で栽培生産されているあかい菜園さん、アクアマリン福島さん、講演していただいた福島大学の中井学長様、本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。